

1 担い手の育成と経営力の強化

数値に基づいたトマト経営の実践による収益改善項目の検討

対象者 施設トマト生産者

【普及活動のねらい】

施設トマトは、管内で17戸、延べ2.2haの栽培があり、管内の施設園芸における主力品目です。主力生産者の多くが加温栽培や周年栽培等に取り組んでおり、燃油・肥料価格の高騰や病害虫のまん延による減収や品質低下により、収益性低下に悩んでおられました。

そこで、中核的な生産者5戸について、栽培管理、労務管理、経費の分析を、生産者とともに行うことで、各生産者の収益性改善項目を抽出し、経営改善につなげることを目標に支援に取り組みました。

【普及活動の内容】

栽培管理については、数値で栽培状況を把握するため、生育状況を定期的に、生産者とともに測定し、現在の生育状況を過去の生育と比較して、栽培管理が適切に実施できているか確認しました。

労務管理や経費については、聞き取りや決算書の分析により改善項目の抽出に取り組みました。さらに、研修会において、生育の経過や、直売所の販売状況、市況の推移を共有し意見交換することで、個々の改善項目の抽出に向けた意識付けの機会を設けました。

【普及活動の成果】

5戸の生産者とも高騰する肥料価格や燃油価格が収益性低下の大きな課題ですが、燃油使用時期の見直し（作型変更）を図るよりも前に、栽培管理面で収益性改善が可能な項目が把握できました。具体的には、4戸の生産者で、コナジラミ、灰色かび病、葉かび病が特に問題となっており、発生抑制や防除の省力化が課題と分かりました。また1戸は、ホルモン処理や肥培管理が生理落花につながっており、栽培管理の改善が課題と分かりました。

今後は、後作も含めた年間を通じての病害虫防除体制の見直し、自主的な生育診断による肥培管理の改善など、生産者による収益性改善の取り組みを支援します。



生産者と数値で栽培状況を把握



トマト栽培研修会の様子

◎対象者の意見

防除は農薬費以上に人件費面で課題と感じている。提案いただいた天敵生物を活用した防除に取り組むので指導をお願いしたい。（生産者 T.K氏）